

## 世帯と人口

(5月1日現在)

世帯 43,657 (+227)  
人口 118,726人 (+272)  
男 60,665人 (+146)  
女 58,061人 (+126)

この数値は平成12年国勢調査人口を基に異動人口を加算し集計したものです

平成13年(2001年)6月1日 第726号

## 編集・発行

海老名市役所 広報広聴課

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

\*この広報は再生紙を使用しています。

# えびな

# 広報



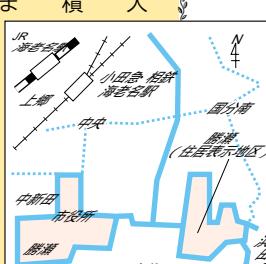
▲一面のレンゲ畑は春の風物詩

えびな模様…勝瀬から

右下・旧津久井郡日連村勝瀬地区（井上陸氏提供）

# 語り継ぐレンゲの里

勝瀬 アラカルト  
・人口と世帯(5月1日現在) 471人  
〔男233人、女244人〕 187世帯  
・面積 0・21平方キロメートル〔市全面積  
は26・48平方キロメートル〕  
・地名の由来 ①相模川の瀬が勇ま  
しく流れれる瀬なので、②川瀬が景勝をつくり出したので、  
などの説がある



時は流れ、当時の様子を知る人はわずか。「あのころの大人たちのがんばりで今この地球上の海老名市に『勝瀬』がある。何物にも替えがたい財産だから風化させたくない」と年配の人たちは話します。ぜひ、世代から世代へと語り継いで欲しいものです。

移転にあたっては道祖神や石碑をはじめ、菩提寺の鳳勝寺と氏神を祭る八坂神社も、土台の石を始めすべての資材を運び込み、現在の場所に移築しました。移住直後はとりわけ人々の心のよりどころとなつていていたそうです。また、祭礼の太鼓・踊りなど、信仰や風俗習慣もそのまま伝えられてきました。

「勝瀬」という地名は、元は旧津久井郡日連村にあった集落の名前です。豊かな自然に恵まれ、森林、水など資源も豊富な場所で、稲作も盛んでした。蛇行する相模川の流れに囲まれて、他の地域から独立したような地形だったためか、集落内の人々はお互いによく助け合い、団結心が非常に強かつたそうです。

しかし昭和13年、勝瀬とその周辺は相模川ダム建設地に決定され、水没することになりました。このため、勝瀬集落のおよそ半分が昭和17年から海老名（当時の国分と大谷の一部）に移住を開始しました。住民はふるさとの地名をぜひ残したいという強い願いから、移住先の集落名をそのまま「勝瀬」と命名しました。これが現在の東側の地域（住居表示地区部分）です。

そして移住が終了する同19年には、県が稲作のための水田地帯をあっせんし、住民はそこを飛び地として持つことになりました。市役所周辺の勝瀬地区がこれにあります。

「ここは勝瀬。春はレンゲの花のじゅうたんに覆われて、花摘みに来る子どもたちの歡声がじだまします。季節が変わり、一面に農業用水をたたえると、いろいろな野鳥が飛来して私たちの目を楽しませてくれます。このような安らぎの空間を提供してくれる勝瀬は、実は、市内の2箇所に分かれています。その理由をさぐると勝瀬の歴史に出会うことができます。